次の『論語』の訓読文・書き下し文と、解説を読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】子曰ハク、吾十有五ニシテ而志ス于学ニ。
三十ニシテ而立ツ。
四十ニシテ而不惑ハ。
五十ニシテ而知ル天命ヲ。
六十ニシテ而耳順フ。
七十ニシテ而従ヘドモ心ノ所ニ欲スル、不踰エ矩ヲ。

【B】子曰ハク、知ル之ヲ者ハ、不如カ好ム之ヲ者ニ。
好ム之ヲ者ハ、不如カ楽シム之ヲ者ニ。

（書き下し文）

【A】子曰はく、「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。
「　X　」。五十にして天命を知る。六十にして耳順ふ。
七十にして心の欲する所に従へども、矩を踰えず。」と。

【B】子曰はく、「之を知る者は之を好む者に如かず。
之を好む者は之を楽しむ者に如かず。」と。

（注）【A】十有五＝十五。学＝学問。立つ＝自分の立場が定まる。天命＝天が自分にあたえた使命。耳順ふ＝人の言うことを、すなおに聞き入れられる。欲する所＝したいと思うこと。矩＝きまり。人として守るべき道。踰えず＝はみ出さない。【B】之＝ここでは学問のこと。

【解説】

『論語』は、今からおよそ二千五百年前の中国の思想家、孔子が語ったことばや行いを、孔子の死後に弟子たちがまとめた書物である。孔子は、人を思いやる心である「仁」を大切にし、学び続けることで、人は成長していけると説いた。

【A】は、年をとった孔子が、自分の一生をふり返って語ったことばである。十五歳で学問の道に進もうと決め、三十歳で自分の立場をしっかりと定めた。四十歳になると、あれこれと迷うことがなくなった。その後も孔子は学び続け、七十歳になると、思うままにふるまっても、人としての道を外れることがなくなったという。このことばから、日本では四十歳を「［　a　］」、三十歳を「而立」、十五歳を「志学」とよぶようになった。

【B】は、学ぶ人の心の持ち方を、三つの段階で示したことばである。ものごとを「知っている」だけの人は、それを「好きだ」と思っている人にかなわない。そして、「好きだ」と思っている人も、それを「楽しんでいる」人にはかなわない、というのだ。

1「好む」と「楽しむ」は、似ているようで少しちがう。好きなことでも、うまくできないとつらくなったり、人と比べて落ちこんだりすることがある。好む人は、まだ自分の外にある目標を追いかけているのだともいえる。それに対して、楽しむ人は、取り組んでいることそのものに喜びを見いだしている。だから、うまくいかないときも、その苦労さえ味わいながら、長く続けていくことができる。孔子は、このように学ぶことそのものを喜びとする姿を、学問の理想と考えたのだろう。

二千五百年も前のことばが、今も多くの人に読まれ続けているのは、そこに、学ぶことや生きることについての変わらない真実が語られているからである。

（創心館オリジナル文章）

問一 書き下し文の［ X ］に入る部分を、【A】の訓読文の返り点と送り仮名にしたがって、書き下し文に直しなさい。

問二 【A】の「七十而従心所欲」を、返り点にしたがって読む順番に、漢字を書き並べなさい。ただし、読まない字は書かないこと。

問三 【A】の訓読文の中で、書き下し文には書かれていない字（置き字）を二つ抜き出しなさい。

①

②

問四 【B】で、孔子が最もすぐれているとする人から順に並べたものとして最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　知る者・好む者・楽しむ者　　イ　好む者・楽しむ者・知る者

ウ　楽しむ者・知る者・好む者　　エ　楽しむ者・好む者・知る者

問五 解説の［ a ］に入る、四十歳を表すことばを、【A】の訓読文から漢字二字で抜き出しなさい。

問六 【A】の内容として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　孔子は十五歳のときに、すでに学問を完成させていた。

イ　孔子は年を重ねながら学び続け、少しずつ自分を高めていった。

ウ　孔子は七十歳になって、ようやく学問を始める決心をした。

エ　孔子は四十歳のころ、どう生きればよいか迷い続けていた。

問七 【B】の「之を楽しむ者」に最も近い人を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　テストに出るので、歴史の年号をたくさん覚えている人。

イ　サッカーが好きで選手になりたいが、負けると練習がいやになる人。

ウ　星を見ること自体に喜びを感じ、何年も観察を続けている人。

エ　友達にほめられたくて、毎日絵をかいて見せている人。

問八 1「好む」と「楽しむ」は、似ているようで少しちがうとあるが、どのようにちがうのか。解説の内容をふまえて、「目標」「喜び」という二つのことばを使い、五十字以上、六十字以内で書きなさい。

解答（答えと短い解き方）

漢文の返り点・書き下し 標準① 論語を読む

本文の読解

問一 四十にして惑はず

「而」は置き字なので読まない。「不」にはレ点があるので、「惑」を読んでから「不」に返る。

問二 七十心欲所従

「而」は読まない。二点の「従」、一レ点の「所」は後回し。「心」「欲」→「所」→「従」の順。

問三 而・于（順不同）

「而」と「于」は、訓読するときに読まない置き字。書き下し文にも書かない。

問四 エ

「AはBに如かず」は「AはBに及ばない（Bのほうがすぐれている）」。

問五 不惑

「四十にして惑はず」から、四十歳を「不惑」とよぶ。

問六 イ

十五歳で学問を志し、年を重ねるごとに心のあり方が深まっていったことを語っている。

問七 ウ

解説に「楽しむ人は、取り組んでいることそのものに喜びを見いだしている」とある。

問八 （例）好む人は外にある目標を追いかけ、うまくいかないとつらくなるが、楽しむ人は取り組むことそのものに喜びを見いだしている。

好む人は外にある目標を追いかけ、楽しむ人は取り組んでいることそのものに喜びを見いだしている。